

ノベル

フィンランド防衛省が Linuxへの移行でノベルを採用

米国ノベル社は、フィンランドの防衛省が、Novell SUSE Linux Enterprise Serverを同省における最重要プロセス管理・記録アプリケーション、メッセージングサービス、イントラネットポータルのためプラットフォームとして採用したことを発表した。同省はノベルのLinuxプラットフォームを「実証済みの信頼性や高い可用性、セキュリティ」の観点から選択したと語っている。

フィンランドの防衛省では、重要なアプリケーションをLinux上で稼働させて、職員はWindows端末からこれらにアクセスするという異機種混合IT環境で稼働している。同省の意思決定プロセス、文書のやり取りや電子メールコミュニケーションは、Lotus Dominoをベースとしたプロセス管理と記録のためのアプリケーションを通じて行われている。また全ての交換文書は、スキャンされてこのアプリケーションに読み込まれ、行動はシステムを通じて評価、承認されている。

今回、同省では、既存のUNIXでの導入からの移行を図り、Lotus Domino環境のために特別に最適化されたSUSE Linux Enterprise Serverを選択した。同省はまた、主要な組織情報や職員のための施設予約、および掲示板などのワークグループ・アプリケーションを備えた同省の新しいイントラネットポータルの基盤としてもSUSE Linuxを採用している。

昨今、本件のように、ノベルのLinuxを活用する行政機関が増えている。その一例として、ドイツのミュンヘン市、ノルウェーのベルゲン市、米国コロラド州ジェファーソン郡などの地方自治体、ノルウェーのビーラム(Baerum)市や米国インディアナ州の教育システム、スイス連邦政府、英国国民健康保険システム、米国国立衛星研究所、そして、ニュージーランド文部省および国税庁などがあげられる。

ノベル(株) ノベルインフォメーションセンター
<http://www.novell.co.jp/nicweb/>

沖電気

「CTstage 4i」による150席の コンタクトセンタシステムをスルガ銀行に納入

昨今、金融の自由化が進んでいく中で、保険・証券業などの異業種や外資系金融機関、ネット専門銀行がリテールバンキングに積極的に参入し、競争激化の様相を呈している。スルガ銀行では、全貸出金のうち個人ローンの占める割合が全邦銀中トップの70%以上に達するなど、他行に先駆けてリテールバンキングに注力しており、その更なる強化として、お客様の声をはじめとした真のニーズを活用した、新しいCRMの実践を可能とするシステムの構築を検討していた。

その結果、沖電気工業のCTIサーバ「CTstage 4i for .NET (CTstage 4i)」をベースとしたIPコンタクトセンタシステムを採用した。今回の採用は、CTstage 4iによるIPコンタクトセンタシステムが持つ、アプリケーション組み込みの柔軟性・CRMなど、他システムとの連携の容易性が、スルガ銀行が目指す「情報通信融合基盤によるお客様の声の収集・コミュニケーション向上・コンプライアンス強化」に最適であるという判断によるものである。スルガ銀行では、4月よりダイレクトバンク総オペレータ席数250のうち、席数150を入れ替えて稼働を開始する予定である。

今回のIPコンタクトセンタの構築により、アウトバウンドおよびインバウンド業務の効率化として、担当者制による着信順位制御や、オペレータのスキルにより任意のグループで電話が受けられるフリーグループ機能を実現し、成約率が向上した。また、ローン受付・審査・結果連絡のスムーズな連携による、受付業務の負荷軽減を簡易ワークフローとして実現し、従来の紙ベースでのやり取りからの脱却も可能になった。今後は、転送対象営業店を順次拡大していく予定である。

沖電気工業(株) PC/WS インフォメーションセンター
TEL : 0120-490-988

アドビ システムズ

「FlashCastテクノロジー」を採用したNTTドコモのiチャンネルサービスの契約数が200万契約を突破

アドビ システムズ社は、2005年9月にスタートしたNTTドコモのニュース情報配信サービス、iチャンネル・サービスの契約数が、全国で200万契約を突破したことを発表した。アドビ システムズ社のFlashCast技術を採用しているiチャンネルは、豊かなモバイル通信環境を実現するクライアント・サーバ・ソリューションであり、加入者は基本となる5種類のチャンネルを自動受信してニュース、天気、芸能、スポーツ、占いなどのコンテンツを楽しむことができるサービスである。チャンネルが更新されると、携帯電話の待受画面にテロップが表示されて加入者に知らされる。また、オプションでNTTドコモの提供するさまざまなチャンネルを追加することも可能である。

アドビ システムズ社 モバイル&デバイスソリューションズ担当シニアバイスプレジデントのアル・ラマダン氏は、「NTTドコモはこれまで、革新的なサービスを展開するグローバル企業として、モバイル業界を牽引してきました。今回のiチャンネルも、まさにこれまで同様、最高のサービスの実現に向けた取り組みを示すものです。NTTドコモが当社のFlashR技術を採用したことで、日本国内においては、モバイルネットワークを活用したライフスタイルにおいて携帯電話がより不可欠な存在となりました」と述べている。

NTTドコモの対応端末を使用するユーザーは、iチャンネル対応ボタンを押して情報一覧を表示させ、その中から閲覧したいコンテンツを容易に選ぶことができる。サービス料金は月額157.5円（税込）で、サービス開始以降、新しいものに目のない若年男性をはじめ、中高年の消費者に至るまで多岐にわたるユーザー層がこのサービスを利用している。多くのユーザーは、操作が簡単で視覚的に豊かなユーザーインタフェースを採用した同サービスに大きな魅力を感じているようである。

アドビ プレス デスク
TEL：03-5445-1272

サイエンスパーク

税理士法人 中央青山が「Driverware 4thEye Professional++」を採用

サイエンスパークは、プライスウォーターハウスクーパース 税理士法人 中央青山（中央青山）が、社内セキュリティ向上のために、同社の情報漏えい防止・監視システム「Driverware 4thEye Professional++（ドライバウェア フォース・アイ プロフェッショナルプラスプラス）」を採用・導入したことを発表した。

昨今、大容量のデータを簡単に素早く持ち出すことができる利便性が高いUSBメモリディスクや、CFカードなどのリムーバブルディスクがビジネスの場でもよく利用されている。しかし、利便性の高いということは、いつでも誰でも簡単に機密性の高いデータを手軽にリムーバブルディスクへコピーをして持ち出すことができるということである。また、そのリムーバブルディスクを持ち運ぶ際には、盗難や紛失などのトラブルによる情報漏えいのリスクが常につきまといっている。中央青山では、企業にとってリムーバブルディスクでのデータ持ち出し管理は重要な課題であると考え、情報漏えい対策製品の検討を行った結果、サイエンスパークの「4thEye Professional++」を採用した。4thEye Professional++の採用理由は、USBメモリディスクの利便性を保ちつつ、社内、社外でのこれまでどおりデータ交換が可能であることと、万一のトラブルによりディスクが紛失/盗難されても保護機能があること、ユーザー権限でも利用が可能であること、持ち出しデータの履歴が取れること、導入/運用管理が簡単であること、などである。

なお今回の4thEyeの導入は、東芝情報システムが4thEye Professional++の提案、運用パターンの策定、導入などを行い、2005年12月末には、約300台への導入を完了し、実運用を開始している。

サイエンスパーク(株) 東京支社
TEL：03-5210-3189